

第54回 姫路文化賞

おおやぶ きょくしょう

大藪 旭晶 (筑前琵琶)



大藪さんは1999年に宍粟郡山崎町（現在は宍粟市）に転居してこられました。以前の居住地の東京杉並／渋谷、奈良県田原本で既にNHKのFMラジオ放送の他、色々と演奏活動をしておられたようでした。山崎でもさっそく活動を始められました。その第一歩が、近隣の方々に琵琶を知ってもらいたいと始めた、ご自宅でのコンサート「琵琶春秋」でした。その活動は宍粟郡内各地の老人大学、たつの市、姫路市へと広がっていきました。

大藪さんは明石生まれの明石育ちで、幼少の頃から母の大藪旭寿さんに手ほどきを受け、9歳から柴田旭堂師の門下となられました。柴田師は先日急逝された、元タカラジェンヌの琵琶奏者・上原まり（柴田旭艶）さんのご母堂です。

コープこうべの組合員になられたのがきっかけで知り合いましたが、お会いした時の第一印象はもの静かで控えめな普通の奥さんでした。でも舞台での演奏されているお姿とお声は別人でした。心に響く琵琶の音色に吸い込まれてしまいます。一人でも多くの方に大藪さんの演奏を聴いて頂き、琵琶を身近に感じ、親しんでいただきたいと願っています。

西脇 恵美（コープこうべ理事）

略 歴

明石市に生まれ、現在市内に在住。

幼少の頃より母大藪旭寿に手ほどきを受け、後に筑前琵琶日本旭会総師範の二世柴田旭堂師の門下となる。

1993年度日本琵琶楽コンクール第二位受賞。

NHK邦楽オーディションに1992、93年（東京）、1998年（大阪）と合格。NHK・FM番組〔邦楽のひととき〕にて20数曲が放送される。

〈春琴抄〉、〈朗読琵琶・耳なし芳一〉、〈流転壇の浦〉、〈朗読琵琶・小豆島の尾崎放哉〉、〈いろは歌〉、〈野辺の草・妓王〉、〈朗読琵琶・くもの糸〉、〈朗読琵琶・源氏物語より薄雲〉、などオリジナル曲の創作にも取り組んでいる。

お寺や神社、図書館、公民館、ギャラリー、学校および劇場等で演奏活動を行っている。

2016年秋から100曲を目指して年に3～4回の独演会〔琵琶百番・大藪旭晶の小宇宙〕を開いている。

第54回 姫路文化賞



やまだ えいこ
山田 英子 (文学)

山田英子さんは、エッセイを書き続けることによって、エッセイというジャンルを「文学」の領域にまで高めた、稀有の人である。

今から20年ほど前、ちょうど西暦2000年に、私たちの「文芸日女道」の仲間に入ってくださいました。それ以来、毎月、一度も休むことなく作品を発表してこられた。音楽、美術、文学への深い関心と見識、数々の旅、周りの人々のこと……格調高く、繊細な文体で、読者をいつも、新しい時空へと誘いこんでくださいました。『刻(こく)を紡ぐ』(2009)、『刻のアラベスク』(2015)(いずれも編集工房ノア)の二冊は、その芳醇で豊穡な世界の凝縮だ。近年は、これまでの世界をさらに深めて、一段と高い自在の境地に達した観がある。「文学」と呼ぶゆえんである。

森本 穂(川端康成学会特任理事・阿部知二研究会事務局長)

略 歴

1962年(昭和37年) 京都女子大学短期大学部文科卒業。

賢明女子学院短期大学に就職。

姫路交響楽団の前進、姫路バロックアンサンブルにバイオリンで参加。

1963年(昭和38年) 椎名麟三作ミュージカル「姫山物語」のオーケストラに出演。

1967年(昭和42年) 京都市に転居。

夫の仕事の関係でアムステルダム(オランダ)に転居。一年半在住。

特に美術、音楽に興味を持ちヨーロッパ各国を訪問。帰国後、宇治市に居住。

1991年(平成3年) 姫路に帰郷。

姫路文学館のボランティア活動を開館後3年より続ける。

夫に同行して、アメリカ、ヨーロッパを頻りに旅行、海外の友人と活発に交流し、各地の美術館を訪ねる。

地域のコーラスグループに参加。また毎月、自宅での弦楽カルテットや夫のチェロとデュエットを楽しむ。

2000年(平成12年) 「文芸日女道」同人。

2009年(平成21年) エッセイ集『刻を紡ぐ』を編集工房ノアから出版。

2015年(平成27年) エッセイ集『刻のアラベスク』を編集工房ノアから出版。

文化功労賞



しょう みきまさ

庄 幹正 (地域文化活動)

庄幹正氏は昭和41年、関西学院大学大学院博士課程終了後、同年から平成11年まで関西外国語大学教授として奉職し、「憲法の解釈とその方法」「憲法と国家緊急権」「衆議院の解散と統治行為」など憲法に関する論評を多数発表して教育に携わって来たものであるが、平成24年、著書『あの道この道～わが人生 わが思索』（中央公論社）、同26年に、同28年に続編を出版、歴史、哲学、倫理、農業、野球、相撲、将棋、酒、グルメ等々多角的に文化を論じている稀有の人である。

また、福崎町文化協会会長として国文学者井上通泰、民俗学者柳田国男顕彰・山桃忌（講演、シンポジウム、短歌祭、民俗芸能しし踊り、千年家保存）をはじめ各種行事の主催、共催、後援するなど旺盛に活動して、ふるさとの文化振興に貢献している。

楠田立身（短歌ぐるうぶ象の会代表）

活 動 歴

- 1966年 関西学院大学、同大学院法学研究科（博士課程）修了
関西外国語大学就職
- 1999年 関西外国語大学教授定年退職
- 2001年 福崎町文化協会副会長（～2010年）
- 2010年 西播磨文化協会連絡協議会常任理事（～2015年）
- 2011年 福崎町文化協会会長（～現在）
- 2016年 西播磨文化協会連絡協議会監事（～現在）

著 書

- 2012年 『あの道この道～わが人生わが思索』（中央公論事業出版）
- 2014年 『続編 あの道この道～わが人生わが思索』（中央公論事業出版）
- 2016年 『続々編 あの道この道～わが人生わが思索』（中央公論事業出版）

受 賞 歴

- 2010年 兵庫県自治賞
- 2015年 兵庫県地域活動功労賞

文化功労賞



たなか さはる
田中 早春 (古文書研究)

議員になった時、網干の活性化のために、旧網干銀行、ダイセル異人館等、歴史あるまちをアピールしたい。もっと網干の歴史の勉強を、と考えました。

その時、公民館で古文書の指導をなさっている方が、地名研究家の田中早春先生と知り、地味な仕事にコツコツ取り組まれている姿に感銘を受けました。歴史的遺産の山本家、加藤家、片岡家等々を訪ねると、それぞれの所に、繁栄の当時を伝える資料古文書が大量に残されています。また、各村にも古文書が残されており、歴史を今につなぐ古文書解読の必要を感じました。

すでに田中さんは、地名と歴史の関係に注目されて、播磨学研究所にも属しながら、各地の地名を、不屈で旺盛な研究心で独自に調査を重ね、「姫路市小字地名、小字図集」（1994年）を出版。市内の公民館等で、地名・古文書、歴史の講師として招聘されてきました。

近年の歴史ブームの中で、各地で古文書の会も盛んとなり、田中さんの活躍の場も広がり、各地の古文書解読の本が冊子となり、市民に公開されています。

難解な古文書の解読には、歴史と古文書に卓越した力をもつかじ取り役が重要であることを、田中先生の古文書の会に一時期寄せていただき実感したものです。

歴史によるまちおこしの原点の活動に永年貢献されてきた田中さんの功績は、文化功労賞の名にふさわしいものです。

大脇 和代（元姫路市議会議員）

活 動 歴

40歳代の頃、姫路城瓦師の研究者・故有本隆氏主催の歴史の会に入会。

その頃、多くの田畑の宅地への転用標識に、小字地名が記されているのを見て、小字に興味を持ち、やがて小字は消滅するのではないかという思いから50歳で姫路の小字地名の悉皆収集を目指し、法務局や市内250ヶ村を訪ね、10年の時を経て60歳で歴史資料として刊行。

そんな中で、古文書と出会い、資料運と才覚あふれる人々にも恵まれ、公民館またはその他で30数年指導に当たる。

著 書

『姫路市小字地名・小字図集』 発刊（1994年） 姫路市文化年度賞

『姫路の地名由来・百一話』 発刊（2009年）

共 著

『兵庫県小字名集』（兵庫地名研究会）

『播磨学紀要』第4巻に掲載（1998年）

『播磨学紀要』第14・15・16・17・18巻と室津惣会所文書22号に「播州皿屋敷」

掲 載

「姫路城郭研究室年報」・「バンカル」・「むろの津」に掲載

公民館活動として「古きロマンを訪ねて」・「飾磨県宝飾日誌」

「加藤高文幕末風説／風聞覚書」

第36回 黒川録朗賞

おかだ みちあき

岡田 道明 (塗師)



平成元年に伝統工芸、寺院、仏壇、別注品、完成修復、金箔押し、茶道具、漆塗全般を創業され平成10年に書写塗り伝承協会を発足し今日に至っています。

岡田さんのこの漆芸の道に入るきっかけは大変興味がありました。

彼の少年期は、ご両親がたばこを栽培され、小学校の頃からその作業に携わり、一家を助けておられました。勉強はあまり好きではなかったそうですが、そのころから職人になりたいと思っていました。青年期を迎えたある時、古い寺院で傷んでボロボロの仏像を見た時、「これを修復したいと強く思い」この道に入る決心をされました。その時、「天からの指令」のような気がしたそうです。

それから仏像の時代背景、そしてそれにまつわる歴史がらみ等々、勉強嫌いには到底思えないほどの弁が立ち、何事にも徹底され、中途半端なことは許されず、時々誤解される事がありますが、そういう創作者の姿勢を評価し、心地よく聞かせていただいていたいました。

塗師岡田さんのプロフィールを見せていただき、この30年間になんと多くの仕事をされ、それもすべて古い歴史にどっぷりとつかり、現在につなげてこられた忍耐と努力に心から拍手を送りたいと思います。

池川みどり (ギャラリー池川)

略 歴

- 1989年 創業 (伝統工芸・寺院・仏壇・別注品・完全修復・金箔押し・茶道具・漆塗全般)
- 1998年 書写塗り伝承協会発足
- 2003年 山口県蓮光寺・本堂修復、高野山別院・横浜金剛院・本堂新築、姫路城 (菱の門・かとう窓・格子窓漆塗) 参加協力
- 2004年 元誓寺「大谷本廟型・礼盤一式」(県の伝統的工芸品に認定)、第9回「ひょうご・夢工房」に出品
- 2005年 たつの市宝積寺にて初の個展、納骨仏壇「永遠の想い」を製作 (県の伝統的工芸品に認定)、震災10年記念事業「兵庫ものづくりフェア」に出展、大谷本廟型余間卓及び大谷本廟型菊灯 (県の伝統的工芸品に認定)
- 2006年 相生西法寺本堂修復、大根の一輪挿製作 (相生市に寄贈)
- 2007年 漆塗り大茶碗 (網干龍門寺に寄贈)、150年ぶりに文献をもとに、書写塗りを復刻、朝日放送「ムーブ」に出演、たつの市八瀬家にて個展
- 2008年 書写塗りを文献に基づき完成 (完成品を書写山円教寺に寄贈)、NHK・サンテレビに出演
- 2013年 姫路市美術工芸館「姫路仏壇に見る匠の技」展、室津海駅館「漆道」作品展開催
- 2014年 兵庫県竹田塗り研究会結成「漆サミット in 京都」竹田塗出品
- 2017年 加古川普光寺内陣修復、ギャラリー池川個展「うるしの体温Ⅱ」
- 2018年 たつの市一行寺 (天井、御宮殿・須弥壇) 修復中、書写美術工芸館にて個展「うるしの体温Ⅲ」、美術工芸館主催「書写山円教寺・歴史を語る美術と工芸」「書写塗」実演・解説、書写塗「応量器」を制作 (書写山円教寺へ奉納)

第36回 黒川録朗賞

きざわ としみち

木澤 平通 (水彩画)



少年の頃、画家になりたいという夢をいだいた。しかし生活が第一ミューズの誘いはいったん心に封印し、魚屋の商売にいそしむ。

50歳をすぎてようやく夢をかなえる条件がととのった。毎日欠かさず画材をもって出かけ、年間千枚もの風景画を描く。モネやターナー、チェンバレンに挑んでいるというその作風は、「大気を描く」というフレーズに集約される。描く対象はおもに加古川周辺、東播磨・印南野（いなみの）の山野である。この地に生い育った者にとっては、ゆりかごのように心やすらぐ産土（うぶすな）の風光が、カンヴァスに写しとられる。どの絵からも、あっ、ここは見たことがある、と思わせるなつかしい既視感（デジャビュ）が、写真ではなく絵でないといふ吹いてこない純化された空気が、四季おりおりのよそおいをまとめて、ささやきかけてくる。

自身の画境を深めるばかりでなく、木澤水彩画教室を主宰。多くの門下生がつどう。教室とはいってももっぱら屋外、現場でのレッスン。そのますますの発展が期待される。

千田草介（小説家）

プロフィール

- 1969年 高校入学と同時に恩師（井上雅彦先生）に油彩画の指導を受けた。
地方公募展受賞多数。
- 1972年 兵庫県立松陽高等学校卒業。
家業（魚屋）を手伝いながら油彩画を続け、受賞多数。
- 1979年 結婚を期に家業専従、油彩画中断。
- 1987年 有限会社キザワ設立、代表取締役。
- 2001年 自宅に店舗を移し、特化した商いを始める。
少年の頃の夢を水彩画に変えて独学で始める。
- 2002年 自宅軒下で初の個展。
- 2003年 曾根天満宮資料館にて個展。
以後、大阪・神戸・姫路・加古川・高砂で個展（計21回）
- 2005年 第17回全国公募春日水彩画展初出品（奨励賞）。以後毎回入選。
- 2006年 第9回全国公募川の大賞展初出品（入選）。以後毎回入選。
- 2007年 第10回全国公募川の大賞展（優秀賞）。
- 2009年 第12回全国公募川の大賞展（佳作賞）。
- 2015年 第10回全国公募丹波大賞展（優秀賞）。

第36回 黒川録朗賞



しんぶく

新福 かな (邦楽)

私はかなさんの従兄弟で、同じ年ということもあり、幼い頃から近くでみてきました。彼女は、小学生の頃から「箏の道を歩みたい」という夢を持ち、東京藝術大学・同大学院に入り、しっかりと古典を学んできました。

卒業後は、大学の先輩である、尺八奏者 松崎晟山氏（後にご結婚します）と共に「和楽器オーケストラあいおい」を結成。和楽器の普及をコンセプトに、全国各地で目新しい取り組みをする中、兵庫県立芸術文化センターのオープニングシリーズでは、私もお箏の曲で、ダンサーとしてコラボレーションさせていただきました。彼女の、繊細な技術かつ、迫力のある音色を間近に感じ、心打たれたことを思い出します。

その後、テレビ出演や海外公演、オーケストラとの共演など、活動の幅を広げ、最近では、新たな挑戦として、柳川三味線の勉強を始めています。一方で、お弟子さんを東京藝術大学附属高校に入学させるなど、後進の指導にも情熱を注いでいます。

また、長年にわたり東京に在住するも、姫路西高の箏曲部講師を続けるという、そのパワーは、郷土愛があってこそと…。姫路に戻った今、故郷での更なる活躍を期待しています。

貝川鐵夫（新国立劇場バレエ団 ファーストソリスト）

プロフィール

兵庫県姫路市出身。9歳より箏〈お琴〉、11歳より三絃を始める。井上裕美子師、安藤政輝師、宮田善永師に師事。NHK邦楽技能者育成会43期卒業。東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。同大学大学院終了。

主な演奏記録として、皇居内桃華楽堂にて御前演奏。NHK邦楽オーディション合格、FM「邦楽のひととき」にラジオ出演。團伊久磨「オペラちゃんちき」北京公演に三絃で出演。国土交通省 Visit Japan キャンペーンに於いて、パリ・ベルリンの日本大使館で演奏。同キャンペーン、コシノジュンコファッションショー音楽担当。南京音楽博覧会にて、地元中国楽器オーケストラと共演。東京オペラシティ・コンサートホールにて東京交響楽団と共演。BS-TBS生放送「ニュース少年探偵団」にゲスト出演。北陸新幹線開通記念、金沢城庭園ライトアップショーの音楽収録及び生演奏。

地元関西では、姫路鷲城ライオンズクラブ主催「日本のこころ、邦楽の調べ」企画、出演。第25回姫路城観月会にゲスト出演。その他、「和楽器オーケストラあいおい」として、兵庫県立芸術文化センターオープニングシリーズにおける公演。MBS主催、東福寺音舞台に出演。姫路キャスパホールはじめ、全国各地のホールで公演を行うと同時に、東京港区芸術文化フェスティバルでは、100名を超える区民参加者に指導・共演する。また、毎年夏休みに開催する「ようこそ邦楽」（紀尾井ホール主催）では、親子を対象にワークショップを行う等、普及活動にも意欲的に取り組む。

兵庫県立姫路西高等学校箏曲部講師として、全国大会に導く。また、姫路市立大白書中学校箏曲部講師、アピカ和楽器教室講師を務める他、後進の指導にも励む。

現在、京都當道会、森の会、和楽器オーケストラあいおい所属。

第36回 黒川録朗賞



もろい まなぶ

諸井 学 (文学)

名古屋工業大学在学中、文学を志すも、父上死去により家業の家電小売店を担うことになり文学一筋を断念。けれども思い止みがたく、外国文学、日本文学、また古典を幅広く渉猟、読破。小説の方法形式を研究、習作を続け、密かに書き溜めた作品はすべて冒険的、実験的にして、挑戦に満ち、研鑽したその確かな文章力は魅力、独創にあふれています。

遂に意を決して平成18年、同人誌「播火」60号より同人となられ、デビュー作「見果てぬ夢」より以来、文学と生物学をリンクさせた作品を断続的に、現在103号に至るまで毎号欠かすことなく作品を発表。

平成28年全国出版成った『種の記憶』は神戸エルマール文学賞の候補を獲得、今年度はさらに『ガラス玉遊戯』刊行で気を吐いています。市井の暮らしを髪振り乱してあくまでも心優しく営みながら、なおペンをもたずにいられない無名の作家たち。周囲を振り切りペン一筋であったならば必ずや既に世に出ているに違いないと思われる作家が多くいます。あえてアマチュア作家とは言いません。その情熱と筆力、そして作品の面白さは、プロ作家に迫る豊かな重量を持っています。諸井さんはそんな作家たちの旗手の一人です。

柳谷郁子 (小説家)

プロフィール

1968年 3月 県立姫路東高等学校 卒業
1972年 3月 名古屋工業大学 卒業
2006年 同人誌「播火」60号より参加
現 在 家電小売店を経営

著 書

2016年10月 『種の記憶』(ほおずき書籍)・第10回神戸エルマール文学賞候補
2018年 2月 『ガラス玉遊戯』(ほおずき書籍)